

平成31年 町政懇談会

平成31年1月25日から2月1日まで、町民会館や各区会館などで184人の町民の皆様に出席いただき町政懇談会が行われました。今年の町政懇談会における説明要旨、町民の皆さんからのご質問ご要望などをここに抜粋して掲載いたします。

町長行政報告

平成最後の年、また、5月には元号が変わります2019年の幕開けにあたり、皆様におかれましては、それぞれに健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。私も町長就任2年目を迎え、新たな希望に満ちたまちづくりに向けて職員一丸となつて取り組んでいく所存でございますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

公約に関してご報告がございます。新年度、妹背牛町内で酒米を作つていただきたいと思つています。その酒米で酒造会社純米吟醸酒を製造依頼し、町のお土産品として、またふるさと納税の返礼品としても一役買ってほしいと考えています。

次に、宝くじを購入していただき、それを町に寄附いただき返還義務のない進学基金にしたという構想があることは公約に書いた通りです。しかし、担当より自治体の顧問弁護士に相談したところ、高い確率で法に抵触する恐れがあるとご意見をいただきました。法に抵触する恐れがある以上、一度公約としては撤回せざるを得ないと考え、その旨お伝えいたします。しか

しながら、今後も何らかの形で学ぶ意欲のある人たちを支援する形式を模索していきたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思ひます。

妹背牛温泉ペペルの半年券3万円を2万5千円に値下げするという公約ですが、消費税導入時までは2万5千円に値下げする考えでございましたが、議会よりペペル温泉に関する値下げは、これから始まる建て替え、修繕などの費用がかさむ時期に当たることから、慎重に判断していただきたいという旨の付帯意見をいただきました。実際、営業年数でいきますと30周年が4年後に控えており、大規模改修をはじめ、今後維持補修経費が増大していくことを鑑み、この公約につきましては、残念ながら、断念する事に致しましたのでご報告いたします。ただし、今年10月予定の消費税増税に伴います半年券の値上げはいたしません。

タクシー助成事業の公約についてですが、これは31年度の予算に盛り込む方向で動いてまいりました。しかし、地域間公共交通の支援援助をしている自治体が、タクシー助成をすること



で乗降客数を減らす行為になることや、福祉でも単独で送迎などが行われていること、商工会事業の中で商店街活性化事業としてお買い物おもてなし事業が行われている事、そして高齢者の免許返納により交通の足がなくなることなどを総合的に見直し、統一化して、町民にわかりやすい、使いやすい制度設計にするために、もう少しお時間をいただきたいと思ひますので、どうかご理解のほどをお願いいたします。

公約の中にもありますが、妹背牛町の人口減少のスピードを緩和するためにも移住定住対策は欠かせぬものであります。働

く世代の人たちが街中に住めるようにアパート建設を後押ししたいと考え、新年度実施を計画しています。具体的には、地域優良賃貸住宅建設、定住促進賃貸住宅建設事業助成であり、これは単年度ではなく、需要予測に応じて柔軟に移住・定住に向けた施策として取り組んでいくつもりです。

子育て支援の充実につきましても、さしせまった大切な課題と認識しております。現在、保育所に通うお子さんの保育料につきましては、第3子以降はすでに全額免除となっておりますが、新年度より、それに加え3歳児以上のお子さんのうち第1子と第2子の保育料を半額に減免するよう考えています。これにより切れ目のない子育て支援が可能となります。

今年10月以降、国の無償化の動きがあれば対応しますが、国の動向いかんにかかわらず、町独自の子育て支援策として開始いたします。

各担当課説明

第9次総合振興計画

第8次妹背牛町総合振興計画が平成31年度で終了となるため、平成32年度以降の計画として「第9次妹背牛町総合振興計画」を策定することとなります。

まちづくりの核となる計画を策定する上で、妹背牛に住んでいる皆さまのご意見・ご提案を出来る限り反映した計画となることが重要と考えています。そこで、昨年アンケート調査の実施、まちづくりへの提言箱の設置、今回開催した町政懇談会などにより広くご意見などをお聴きしました。

今回「アンケート調査結果を公表していただきたい」とのご要望がありましたので、広報もせうしの12月号と新年号でご報告をさせていただきます。

アンケート調査やまちづくりへの提言など、大変多くの皆さまにご協力いただきありがとうございます。

健診受診状況

特定健診は生活習慣病と言われている、高血圧、糖尿病、心筋梗塞、脳梗塞を早期に発見し、生活習慣を改善することで、動脈硬化等の進行

を遅らせ、症状の改善、悪化を予防する為に必要な健康診断です。

町では、毎年2回集団検診を実施していますが、31年度も7月と10月に予定しています。

また、特定健診を受けられていない方で、40歳以上の国民健康保険加入者の方は無料で受けられます。

国が定める国保の特定健診目標受診率は、60%となっております。皆様のご協力により29年度は52・7%と過去最高になりました。3月末までに、40歳から74歳までの国保加入者の方で勤務先や個人で特定健診や同等の健診を受けた方は、その結果を保健センターに提出いただくと受診率の向上にもつながりますので、ご協力をお願いいたします。

がん検診も、町の集団検診と一緒に受診できます。対象は、胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がんにつきましては20歳以上、乳がんは30歳以上、前立腺がんは50歳以上となっております。大腸がんは、3月まで申し込みを受け付けていますので、保健センターまでご連絡をお願いいたします。

「コミュニティ・スクール」

本年4月から小・中学校で「コミュニティ・スクール」を実施します。

「地域住民が連携して、小・中学校の運営に関わっていただく」「学校だけでなく地域住民にも協力いただき、子どもを育成する」ことを目的としています。

まず、学校運営協議会を設置します。学校行事に対し、地域がどのように連携するか協議をいただきます。

さらに、学校運営協議会を地域連携部会と学校評価部会に分け、地域連携部会では、ふれあい農園で農業体験のお手伝い、郷土妹背牛祭などへの支援、運動会、学習発表会、など様々な学校行事への関わり方を協議いただきます。学校評価部会では、現在も行っている学校評価を継続します。

また、地域ボランティア人材バンクを設置します。様々な団体に登録をお願いし、学校行事のサポート体制を構築するとともに、学校行事に適した団体へのご協力もお願いすることとなります。

コミュニティ・スクールという組織を設置することで、子育てを終えられた方も学校行事に参画いただく仕組みを作ろうとするものです。

ひとりでも多くの町民のみなさまに、学校行事への参加について、ご理解とご協力をお願いいたします。

財政推計

財政推計は、今後10年先までの町の収支について推計を示しているものです。

まず、本年度の決算見込みである平成30年度の収支の欄が2500万円の赤字になっています。これは本町のように小規模な町は、どうしても税収に乏しく、収入が毎年度安定しないものですから、一時的な収支不足の際には、貯金である基金から穴埋めをする額を示しています。

次に今後10年間の推移では、当町の収入の約半分を占めます地方交付税は、国の懐事情や国勢調査での人口減も影響し、交付額は減少傾向にあります。その一方で、歳出の社会福祉に充てられる扶助費などは今後も伸びていくと見込んでおり、なかなか収支が向上かないのが現状です。

また、これからの大きな支払いとしては、平成32年度の普通建設事業費が一年だけ高い数値(1246)となっています。これは国営農地再編整備事業費の一括精算を予定しており、このように単年度で大きな支払いがある場合は、国からの借り入れにより支払をし、翌年からローンのように返済を行い単年度での負担を軽減しております。

基金残高については、ふるさと応援寄附が順調に推移すると見込んでおりますし、起債残高も平成32年度に借入が一時的に増加しますが、その後は減少傾向になると見込んでおり、財政基盤は決して強いものではございませんが、単年度毎の収支は、マイナスには転じず、黒字で推移すると見込んでおります。

財政推計 (平成29年度決算・平成30年度決算見込ベース)

【歳入】

(単位：百万円)

項目	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41
地方税	290	301	294	288	283	280	275	270	266	262	257	254	250
地方譲与税及び各種交付金	119	121	121	121	139	139	139	139	139	139	139	139	139
地方交付税	1,719	1,628	1,533	1,522	1,418	1,395	1,369	1,422	1,416	1,315	1,291	1,281	1,263
国・道支出金	644	663	518	527	584	527	481	309	317	329	309	342	327
繰入金	209	127	89	100	89	91	91	115	115	115	114	114	114
繰越金	51	14	0	40	140	130	86	57	90	117	89	81	81
地方債	335	460	359	1,145	245	218	159	184	184	184	184	199	184
その他	283	253	245	245	243	240	241	242	242	242	242	242	242
合計	3,650	3,567	3,159	3,988	3,141	3,020	2,841	2,738	2,769	2,703	2,625	2,652	2,600

【歳出】

項目	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41
人件費	632	613	618	597	585	579	552	547	536	517	515	502	478
物件費	485	458	450	433	433	433	433	433	433	433	433	433	433
維持補修費	273	159	162	121	121	121	121	121	121	121	121	121	121
扶助費	195	206	207	208	209	209	210	211	212	213	214	215	216
補助費等	504	478	549	456	446	446	446	321	321	321	321	321	321
公債費	535	475	336	326	333	337	313	394	380	358	337	337	335
繰出金	335	337	325	330	348	351	356	340	352	330	322	310	289
普通建設事業費	534	727	341	1,246	405	327	222	150	166	190	150	201	186
積立金	142	138	131	131	131	131	131	131	131	131	131	131	131
その他	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3,636	3,592	3,119	3,848	3,011	2,934	2,784	2,648	2,652	2,614	2,544	2,571	2,510

収支	14	▲25	40	140	130	86	57	90	117	89	81	81	90
累積赤字													
基金残高見込	1,143	1,129	1,171	1,202	1,244	1,284	1,324	1,340	1,356	1,372	1,389	1,406	1,423
年度末起債残高見込	2,889	2,886	2,919	3,745	3,663	3,549	3,399	3,192	2,998	2,826	2,675	2,538	2,389

主なご質問、ご要望

学校・教育

Q この先、小学校への入学者数など分かれれば教えていただきたい。

A 小学校の入学予定者数と児童数については、

H 31 9人(117人)、

H 32 12人(95人)、

H 33 12人(94人)、

H 34 15人(90人)、

H 35 11人(78人)、

H 36 9人(68人)

と出生数の人数により推計している。

()内はその年度の小学校全体の児童数。



Q 今の児童生徒数では、小学校や中学校はいずれ他の地区と合併などを考えているのか。継続していくのが大変では。

A 小・中学校ともに築50年近くになる。現在、第9次総合振興計画において、小・中統合校の建設を計画としてあげている状況である。道外では広域町村において一部事務組合として学校を運営している例もあり、将来的には北空知圏域としての検討が必要となる可能性もある。

Q コミュニティ・スクールのグランドデザインは、全て町内の方で構成されている。町外からの専門家などを含めた方が妹背牛町の良さを発信してもらえるのではないかと、保護者ではなくても、学校と関わることはありがたい。しかし逆に行事などへ顔を出し、不審者と思われる事がないのか。その辺の対応をお願いしたい。

A 現在でも小・中学校では多くの地域の方に関わっていただいている。コミュニティ・スクール設置は国の指導で努力義務となっており、当初は現在のPTA役員などで組織し、その後の活動内容によって必要な人材を入れるなど、発展させていきたいと考えているので、ご理解いただきたい。

Q ICT教育の推進は将来的にも良いと考えるが、子ども利用に際して、SNSの正しい取扱いの教育は行うのか。また、親に対しても指導計画があるのか。

A 校舎内にWi-Fi環境を構築しインターネットにより多くの情報を取り入れながら授業を進める。プログラミングなどの授業やSNSの危険性も教えていく。また、学校では授業参観日などに外部講師を呼んで保護者向けの講習を実施している。

防災

Q ブラックアウトの際、役場の電力供給や通信状況。水道停止の噂も流れていたが、実際にはどうなのか。防災計画で住民に対してどのような考えを持っているのか。

A 策定した防災計画では、災害対策本部基準もある。昨年の災害時では役場で小型発電機により電話・情報機器類の



1区 町民会館

システム対応を行った。町民の携帯電話の充電については、消防車両にて巡回・周知をし、消防庁舎で対応。また地下水利用者については、電気が止まるとポンプが動かないことから、飲料水などの配布業務も行った。水道が断水になるとの誤報についても消防車両等で巡回し、問題がない旨周知した。実際に水道は1週間分の確保が出来る発電装置があり、燃料補給が可能であれば断水となることはない。



妹背牛町の水道運営

Q 水道が民営化となる話を聞いた。民営化となれば料金も上がると聞いて

いる。妹背牛町も民営化とするのか。

A 法律が変わり民間で水道事業が出来るようになった。今後は配水管の更新などもある中で、利益を求めながらの民間業者での運営は難しいと考える。水道は生活用水として24時間供給が必要であり、行政が責任をもつて引き続き管理運営することが良いと考えている。



地域おこし協力隊

Q 地域おこし協力隊の2名は、そのまま地域おこし協力隊として残るのか。また、新規で3名募集とあるが、どのような活動を行うのか。

A 現在の2名は、地域おこし協力隊としては8月末で終了となる。しかし、2名とも地域活性化のため、妹背牛町に残りたい意思があることから、今後も活躍できる場を考えている。また、新規募集の3名のうち2名は、現在の2名が行っている、ふるさと納税の返礼品作業や特産品開発などを継続していただく。また残りの1名は、町内企業で働く外国人技能実習生の日本語支援や医療機関への受診や買い物などの生活支援、地域住民との交流の場づくりなどを手助けするため募集している。

行政区の再編

Q 区の構成員に差が出てきている。区の再編を計画していかなければならないと思うが、ビジョン的なものはあるのか。

A 10年ほど前に、検討委員会を設置してアンケート調査を実施した。結果66%の方が再編は必要ないとの判断であった。農家地区は農事組合の再編が行われている時期で、行政区として困っていることはないとの回答だった。また、その際に80戸、100戸、200戸、300戸のパターンで3案の青写真を提示しているが、再編には至らなかった。町としてはあくまでも皆さんの意見を尊重する考えは変わらない。区長会・町内会長会議など機会にご意見を聞きながら対応していきたい。

商業高校跡地の利用

Q 高校跡地の利用は何か進展があるのか。
A 町が譲り受けなければ競売とする話が道担当課より

ある。町が無償譲渡の場合には、公共施設としての活用が条件。町でも活用方法について協議したが、広大な敷地のため、具体的に着手出来ないのが現状である。ここ数年にわたり、有償であればいくらか提示をお願いしているが、示されていない。今後は、小・中学校や町民会館の建替えや移住定住対策としての住宅建設などを含めた中で、継続的に道担当と協議していきたい。

多面的機能支払い交付金

Q 多面的機能支払い交付金事業が5ヶ年計画であるため、今年3月で一区切りとなる。その後は事業継続となるのか。また、継続なら変更点などの情報があれば教えていただきたい。

A 多面的機能支払い交付金



9区 コミュニティーセンター

の関係ですが、法整備がされておられ続けている。現段階では情報が入っていないが、単価や取り組みについては前制度と変更がないと聞いている。

移住定住対策

Q どのように住宅や施設を紹介しているのか。地域の人が実際に定住化対策としてどのようなことを実施しているのか分からない。例えば、医療費免除、教育費があまりかからない、田舎

だけれど高い教育を受けられるなど、何か他と違う魅力があれば、妹背牛町で住んでみようと思うのでは。

A 実際に妹背牛に住んでいる方が「妹背牛町は良い」と伝えてくれるのが一番効果的と考えている。移住定住対策としては、町内回覧板などで毎年度の支援助成内容を配布し、町外向けにも町のホームページに掲載している。しかし、現状は町外から通勤している方々の住む場所が無いことから、住宅整備を先行して行いたい。また、まちづくりアンケート調査では、移住定住対策に力を入れるべきとの要望が強く、第9次総合振興計画の中で支援策など強化し、魅力あるまちづくりを展開していきたい。

妹背牛町産純米吟醸酒

Q 酒米を作ってくれる人が

いると聞いた。日本酒を作ってもらうために町の負担もあるのか。

A 1圃場の3反3畝で「すいせい」という酒米。新十津川の酒造会社に製造してもらおう。来年の2月に出来る予定で、4合瓶で1600円程度の販売。町の支出は無く、直接町内の販売店が仕入れて販売する。原料はホクレン経由で酒造会社が買い入れる

スプレー缶の廃棄処理

Q 昨年、札幌市でスプレー缶による爆発事故がありました。妹背牛町のスプレー缶の廃棄処理はどのよ



うになっているのか。

A 国の指導も穴を空けずに排出する方向に変わりつつある。町としては現在、穴を空けてごみボックスへ出していただくこととなっているが、北空知衛生センターとして処理が可能であれば、穴を空けずに排出の方向も検討していく。



ご出席いただきました皆様には、この他にもたくさんの方の貴重なご意見、ご提案をいただき誠にありがとうございました。ございました。

いただいた中から一部を抜粋し、掲載させていただきますのでご了承ください。

道有林への入林はお控えください

エゾシカ狩猟期間中（地域によって異なりますが、一般的には10月1日から3月31日まで）は、多くの狩猟者が道有林へ入林します。狩猟に伴う事故防止のため、この期間の狩猟目的以外での入林はお控えくださるようお願いいたします。エゾシカによる森林被害などを低減するため、皆様のご理解とご協力をお願いします。

【お問い合わせ】
北海道水産林務部森林環境局道有林課道有林管理グループ
☎ 011 - 204 - 5519

巡回無料法律相談会

場所 妹背牛町老人福祉センター
日時 4月15日
相談料 無料

【お問い合わせ】
社会福祉協議会
☎ 0164-32-2411 内線 712